

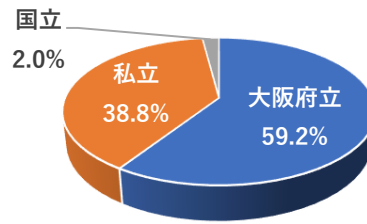
大阪府内の高等学校と大学の連携強化に向けたニーズ調査結果

【趣旨】各高等学校における大学との連携状況や連携に関するニーズを把握し、今後の連携強化を目的とする。
 【対象】大阪府内の国公立私立高等学校
 【実施時期】2023年7月3日～8月25日

回答件数: 49校 / 252校

I 学校種別

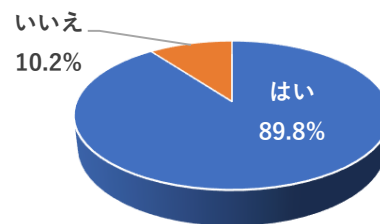
| | |
|------|----|
| 大阪府立 | 29 |
| 私立 | 19 |
| 国立 | 1 |



II 大学との連携に関する現状について

1. 現在大学と具体的な連携や取組を実施しているか。

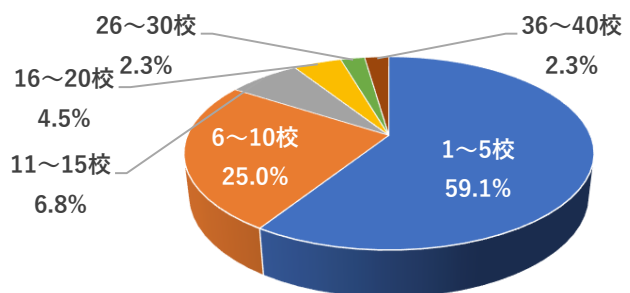
| | |
|-----|----|
| はい | 44 |
| いいえ | 5 |



【2-1～2-4は、1. で「はい」と回答の44校】

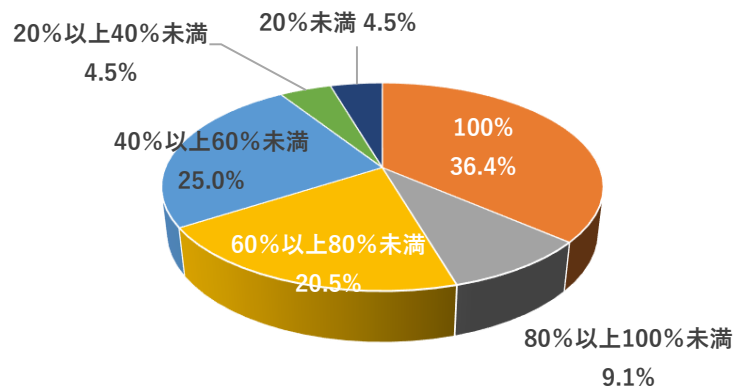
2-1. 過去5年間(2019～2023年)で連携実績のある大学数

| | |
|---------|----|
| 1～5 校 | 26 |
| 6～10 校 | 11 |
| 11～15 校 | 3 |
| 16～20 校 | 2 |
| 21～25 校 | 0 |
| 26～30 校 | 1 |
| 31～35 校 | 0 |
| 36～40 校 | 1 |



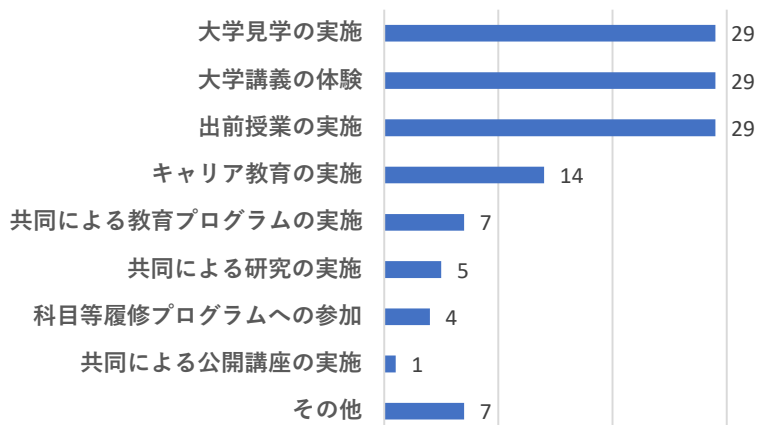
2-2. 連携校のうち大阪府内に所在する大学が占める割合

| | |
|-------------|----|
| 100% | 16 |
| 80%以上100%未満 | 4 |
| 60%以上80%未満 | 9 |
| 40%以上60%未満 | 11 |
| 20%以上40%未満 | 2 |
| 20%未満 | 2 |



2-3. 大学との連携内容(複数回答可)

| | |
|---------------------|----|
| (1)出前授業の実施(大学から高校へ) | 29 |
| (2)大学講義の体験 | 29 |
| (3)大学見学の実施 | 29 |
| (4)キャリア教育の実施 | 14 |
| (5)共同による教育プログラムの実施 | 7 |
| (6)共同による研究の実施 | 5 |
| (7)科目等履修プログラムへの参加 | 4 |
| (8)共同による公開講座の実施 | 1 |
| (9)その他 | 7 |



2-4. 大学との連携内容の具体的記述

(1)出前授業の実施(大学から高校へ)

- ・ 夏期講習中の特別講演
- ・ 保育専門コースの生徒対象に保育に関わる内容
- ・ 「基礎医学講座」「基礎薬学講座」の実施
- ・ 大阪経済法科大学より公務員講座(3年生)
- ・ 幼児教育(音楽)実施元:大阪成蹊大学
- ・ 高3年1月に、帝塚山大学の先生をお招きし、心理学法学の出前授業
- ・ リハビリ、看護、薬など学問別で実施
- ・ ゲーム企画グループワーク、PBLによるマイコンを使ったIoT活用方法と運用
- ・ 2年生の「総合的な探究の時間」において、高大連携協定校を中心に、出前授業を複数回行っている。
- ・ 総合的な探究の時間において医療系の職業について説明していただいた。
- ・ 救命救急講習、模擬授業(分野別)
- ・ 6校の大学教員を招いて、「一日総合大学」として授業体験。
- ・ 大学教員を招聘し、最先端の研究内容について講演していただく。
- ・ ハリウッドの現場 映画のキャンペーンを企画する
- ・ 知的財産権に関する講義を受ける。
- ・ プロジェクションマッピングに関する講義及び作品制作指導を受ける。
- ・ メタバースにおける制服と未来の制服についての講義
- ・ 染織実習の受講「大自然をテーマに模様を染めよう」
- ・ 毎年11月、総合的な探究の時間に5校～6校の大学の先生の授業を受講
- ・ 体育:びわこ成蹊大学から「スポーツと経済」等の出前授業 家庭科:保育系選択授業における出前授業
- ・ 年間10コマ以上の継続出前講義
- ・ 探究授業の実施
- ・ 教職トライ専門コース生徒への授業

(2)大学講義の体験

- ・ 保育専門コースの生徒対象に保育に関わる内容
- ・ 高2対象90分の講義受講
- ・ 大阪経済法科大学の講義体験(3年生)
- ・ 高1年10月に、教育連携を結んでいる大学(近畿大学など)で体験授業
- ・ 関西大学との高大連携プログラム等
- ・ 一部、高校の授業として実施(学校評定科目)
- ・ 看護学部体験、リハビリテーション学部体験、サイエンスラボ(薬学)など
- ・ 数学と物理の講義、サイボーグ型ラジコンカーの試作、ものづくり体験
- ・ 希望者に大学での講義体験を案内している。
- ・ 人権、SDGsをテーマとした探究学習、進路に関わる内容

- ・オンラインによる授業体験
- ・大学でコース別や理系・文系の生徒それぞれを対象に実施
- ・大学見学とともに模擬講義を体験する。
- ・理科セミナーなど、大学にて大学の講義を体験する。
- ・英語講座
- ・看護・医療分野の体験講座等
- ・公共広告についての講義を受ける。
- ・人間工学についてイスを例に特別講義を受ける。
- ・夏季休暇中に大阪公立大学の高大連携講座(夏季集中講座)「工学研究の最先端」で3日連続で大学講義を体験
- ・大学が用意されたセミナーの参加
- ・本校用の体験授業や学生に交じっての大学講義への参加
- ・大学見学コースの一部

(3)大学見学の実施

- ・大学の見学、クラブ体験、食堂体験。
- ・1・2年生のフィールドワーク
- ・「医療体験」の実施
- ・高3対象 説明会と見学会
- ・摂南大学や関西外国語大学等の見学会(1年生)
- ・オープンキャンパスデー実施元:大阪学院大学、相愛大学、大阪経済大学、大阪成蹊大学、大阪産業大学、関西大学
- ・高1年7月に遠方の場合はバス見学会
- ・高校教員引率の元見学会とは別日に実施
- ・大学の施設・設備を利用
- ・オープンキャンパスツアー
- ・1年次、2年次で実施
- ・大学見学を企画した際に対応していただいた。
- ・1, 2年生が進路見学会として大学を見学した。
- ・同志社女子大学、京都産業大学、龍谷大学のキャンパス見学
- ・様々な規模(学年・コース・希望者)で実施
- ・大学見学とともに模擬講義を体験する。
- ・探究活動の指導を受けに大学を訪問し、指導助言をいただくとともに、研究室など最先端の研究施設を見学する。
- ・キャンパス見学、オープンキャンパスへの参加
- ・大阪教育大学実施の教師をめざす高校生育成プログラム「教師にまっすぐ」で大阪教育大学の見学を実施。
- ・高1～2年生の大学キャンパス見学
- ・大学での研修参加
- ・夏季休暇の宿題としてオープンキャンパスの感想を提出させる。

(4)キャリア教育の実施

- ・近畿大学の先生を招いた講演(2年生)
- ・ポスターセッションやマイプロジェクトの発表会
- ・1年次「産業社会と人間」において進路講演会を大学教授等に依頼している。
- ・キャリアパスポート
- ・1, 2年生の分野別説明会で講師を送っていただいた。
- ・分野別進路説明会の実施
- ・高校に来校してもらって志望理由書の書き方講座実施
- ・大学教員や大学院生を招聘し、研究内容の講演とともに、研究職や大学での研究生活等について講義を受ける。
- ・進路講演、キャンパス見学 など
- ・大学講師によるキャリアガイダンス

(5)共同による教育プログラムの実施

- ・ 探究学習プログラム(現代社会学部)
- ・ 法教育プログラム
- ・ 「総合的な探究の時間」における連携(計画)
- ・ 大学が主催する教育イベントへの参加、お手伝い
- ・ 平和学習(広島女学院高校、長崎東高校等)

(6)共同による研究の実施

- ・ 多文化共生教育について
- ・ 統計教育の拡充の可能性に係る研究
- ・ 大阪大学SEEDSプログラムへの参加や、本校独自の探究相談会の実施。大学の研究設備等を利用した探究活動の実施。
- ・ カナダ ゲルフ・ハンバー大学との共同研究

(7)科目等履修プログラムへの参加

- ・ 関西大学との高大連携プログラム等
- ・ 情報の授業における授業教案と教材の作成、スキルサポート、模範プレゼンテーションの提示、補習等。
- ・ 大阪教育大学Ⅱ部の授業を聴講(学校設定科目「大学研究」として高校の単位として認めている。(1単位~4単位)
- ・ データサイエンスの入門

(8)共同による公開講座の実施

- ・ 関西大学との高大連携プログラム等

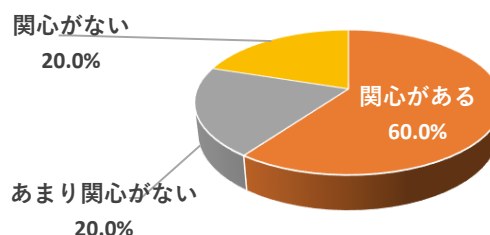
(9)その他

- ・ インターンシップ受入れ(桃山学院教育大)、教育実習生受入れ(立命館大、摂南大、大阪電気通信大、梅花女子大、大阪大谷大、太成学院大学、羽衣国際大、大手前大、桃山学院教育大)、大学院より実習生受入れ(立命館大)
- ・ 留学生のインターンシップ(大学から高校へ)
- ・ 大学説明会等の実施(本校にて)
- ・ 留学生との交流会を実施した。
- ・ 入学試験の特定枠(高大連携入試)の導入
- ・ 高大接続プログラム・高大連携事業による特別推薦入試

【3-1、3-2は、1. で「いいえ」と回答の5校】

3-1. 大学との連携に関心があるか。

| | |
|----------|---|
| 大変関心がある | 0 |
| 関心がある | 3 |
| あまり関心がない | 1 |
| 関心がない | 1 |



3-2. 大学との連携にあたり、課題と思われる点(複数選択可)

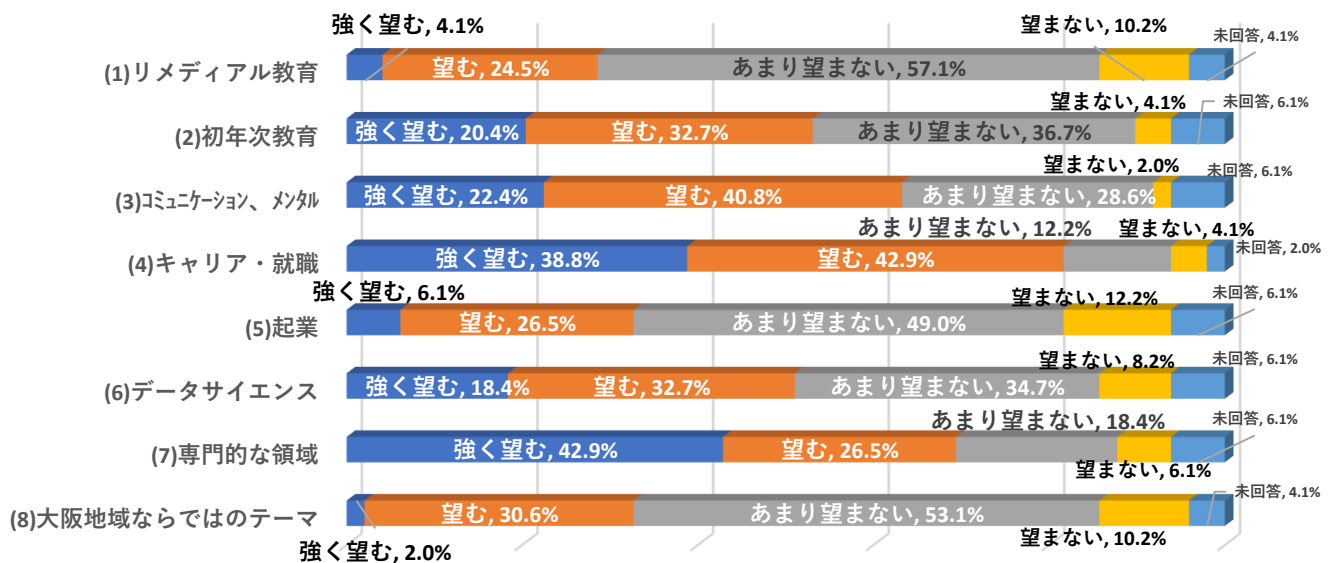
| | |
|-------------------------|---|
| 具体的に何をしたらよいかわからない | 2 |
| 得られる成果がイメージできない | 2 |
| どの大学・どの教員と連携したらよいかわからない | 1 |
| 大学側の窓口や依頼方法がわからない | 2 |
| 大学との効果的な役割分担がわからない | 2 |
| 体制(人数・時間・スキル等)が整っていない | 2 |
| 手続きや調整が煩雑であると思われる | 0 |
| 予算の確保がむずかしい | 0 |
| 大学との連携を必要としていない | 0 |
| その他 | 0 |

4. 大学との連携によって取り組みたい事業やテーマ(自由記述)

- ・ 探究活動について業者に丸投げをしている高校もあるが、できれば大学と作っていく方がいいと考えます。
- ・ ①キャリア教育 ②学生による、総合的な探究の時間の助言 ③留学生との交流
- ・ 現時点で、追加に取り組みたい事業やテーマはありません。
- ・ キャリア教育の実施
- ・ グラウンドや体育館、図書館等の施設設備の共用
- ・ 引き続き、多文化共生教育の推進を図るほか、障がいなどの様々な背景のある生徒に向けた集団作りについて
- ・ 論文の作成(探究活動の一つ)
- ・ 大学の授業体験を行いたい
- ・ SDGs関連とデータサイエンス
- ・ 本校は総合学科であるため選択科目が多い。選択科目や「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」で高大連携授業を推進し、専門的な指導を生徒に受けさせるとともに、進路選択の一助にしていきたい。本校と大学でWin-Winな関係を築いていきたい。
- ・ 専門的な学習内容(研究内容)の講義をしていただく。
- ・ ①地域連携 ②キャリア教育 ③国際交流
- ・ 本校の総合学科の6つの系列(言語社会、理数、ロボット工学、スポーツ科学、造形芸術、映像表現)や演劇科、食物文化科の教育内容に関連の深い専門的な領域について連携できればと考えます。
- ・ 大学進学を希望する生徒がミスマッチを起こさないように、いろいろな分野について大学の担当者に本校に来ていただき、生徒に説明してもらうような進学説明会をしてみたい。
- ・ 総合的な探究の時間での出張講義
- ・ 中高一貫校のため、大学までの10年間を通したカリキュラムの開発を実施していきたい。国際社会で活躍できる人材の育成という点で、語学力はもちろん、課題解決能力や、物事をやり遂げる力などをつけていくような、長期スパンのプログラムやカリキュラムの開発を実施していくことを望んでいます。
- ・ 大学での理系学部のガイダンスと研究室見学
- ・ 探究活動や科学系部活動における大学との共同による研究
- ・ 「探究」の時間を活用し、製品や料理等の共同開発
- ・ 総合的な探究の時間における連携(指導助言、学生ボランティアの派遣、研究連携)
- ・ 教科横断的な学び、文理融合について理解が促進されるようなキャリア教育の実施
- ・ 環境、開発、人権、平和

Ⅲ. 大阪の大学での学びに対する期待について(高等学校としてのニーズ)

1. 大阪の大学での学びが期待される以下テーマ毎の期待度



(9)その他: 大阪教育大学の附属学校の性質上、常に大阪教育大学と、またSSHでは大阪大学との連携を行なっている。

2. 各テーマの具体的な内容

(1)リメディアル教育

- 文系でも理系の入試で合格する場合があるので、大学で学習を続けるためにはリメディアルがある程度必要と考える。
- 高校生の学力低下を感じるため英数国
- 総合型選抜や指定校推薦で進学した生徒の進学後の学力が心配です。習熟度に応じた講座を開講してほしい。
- 低学力の生徒に対して大学に必要な基礎知識の復習講義。
- 大学での学習に不可欠な内容を進学後、復習させるような教育をしていただきたい。
- 履修できていない部分の内容など
- 常識的な学びが抜けているところを埋めてもらう。
- 数学・英語を、中学校の内容から復習
- 「大学で学ぶための基礎学力確認講座」(理由)本校では小中学校の知識も十分に定着していないため
- 基礎学力や一般教養の定着

(2)初年次教育

- PCスキル
- 大学で学ぶ意義
- レポート、論文の書き方、メールの作成など
- 自己学習能力(批判的思考や問題解決能力)を養う
- 講義の受け方(予習復習等)、レポートの書き方
- 中退者を減らすために、担任制等を導入してほしい。
- 社会人として求められる資質・能力について
- 中途退学しないように、入学後1年目に大学での学習についていけるようなスキルを身につけさせていただきたい。
- Theory Of Constraints(制約理論)
- 改めて勉強の仕方を教えてもらう
- 基本的なデザインのデザインスキルについて
- 大学で何を学ぶか・大学ではどのように学ぶか
- 実際の講義をオンラインで視聴できるシステムなどを構築してほしい。
- 「大学で学ぶための姿勢」(理由)単位を修得するために何をすべきかの認識が低いため
- 社会的な基礎知識

(3)コミュニケーション、メンタル、自己認識など態度や考え方

- プレゼンや協議形式の機会を増やす
- 自己理解やコミュニケーション能力を育むワークショップなど
- 社会に出るということ
- 効果的なコミュニケーション能力(プレゼンテーションやディスカッションなど)協働能力を高める
- 講義外の過ごし方
- 学生としての心構えや周囲との関係づくりなど、自己の分析と他人との関係を見つめ直す教育
- 教育相談体制を整えてほしい。
- 協働について
- コミュニケーションが苦手な生徒に対して大学側からアプローチしていただきたい。
- メンタルマネジメント
- アンガーマネジメントや、自分を律する方法など、様々なストレスに強くなるようなプログラムや体験
- 社会に出て恥ずかしくない礼儀
- 社会に必要なとされているスキルの育成について
- 社会生活に必要な対人関係の構築スキルやトラブルを自己解決するための洞察力の育成
- コミュニケーション力の向上について
- ゼミや研究など、他者とのコミュニケーションの重要性など
- 実践的な講義・実習を受講できる機会があれば関心を持つ生徒に勧めることができる。
- 自己理解、自己受容
- 「社会人になるにあたってのSTT」(理由)コミュニケーションを取るのが苦手な生徒が多いため
- 自己肯定感を高める方法
- 特に具体的なテーマはないが、本校生徒が大学進学にむけて、興味を持つものがあればありがたい。

(4)キャリア・就職

- 最終の就職が一番の関心事かと思われます。
- インターンシップ
- キャリア形成の考え方、就職指導についてなど
- 働くとは
- 就職の時に必要となる所謂「学チカ」の記録の仕方、自分の強みに気づくことの大切さなど
- ビジネスのスキルを学ぶというより、適性を育てる方向であってほしい。
- 就職活動とは何をいつすればよいのか
- 地域と連携
- キャリア教育
- いつでもどこでも就職やキャリアについて相談できる体制を整えてほしい。
- 社会人として求められる資質・能力について
- 大学卒業後の進路実現のために手厚く1年目から指導していただきたい。
- 産業の構造について、学習する機会
- 就職ではなく、どのように社会に貢献していくかという観点からのキャリア教育の実施。
- 適職をアドバイスしてもらう
- 大学で学ぶ専門分野がどのようにその後のキャリアに生かされるか。
- 研究職や開発職等の紹介など
- 勤労の意味や自己の生活のための生涯設計
- 就職試験をきっかけにマナー面やエントリーシートの書き方などについてのフォロー
- デザイナーとしてのプレゼンテーション力について
- 大学卒業後のキャリア(高校では見えづらい大学卒業後の進路)
- 大学生が受けているキャリア教育を垣間見る機会があれば、より先を見据えた視点で自分の将来像を描くことが期待できる。
- 就職ガイダンス(大学内での)の充実
- 「これからの社会を形成するために必要な力」(理由)職業観が低く、自発的に考えることができていないため

(5)起業

- 企業とのコラボ商品開発
- 起業とは
- 産学連携事業
- 起業・創業セミナー
- 就職だけではなく、新たに自らが仕事を作り出していくための方法や、考え方を学ぶ教育。
- 起業家からの講演会(手続きや経営者としての心構え)
- 大学全体での産学連携、アントレプレナーシップ教育
- 高校ではなかなか扱えない内容であり、希望生徒は多くはないかもしれないが、企画できれば価値がある。

(6)データサイエンス

- 科学的データ、分析に基づく経営戦略
- データサイエンスの実態
- 多様な分野への適用を視野に入れたデータサイエンス
- 表計算ソフトの使い方
- データサイエンスの基礎
- ビッグデータを扱う上で必要な、統計学を学び、かつAIとの連携を体験できる教育。
- すべての分野に関係するデータサイエンスがどのように活かされるか
- データの解析・分析方法を学び、客観的に物事を評価、判断できる力を身につける。
- データサイエンスを活用した研究
- 非常に小さな数や非常に大きな数の感覚、確率統計的な意味の感覚を身に付ける
- AIやIoTの活用、ビッグデータの活用事例の紹介、統計の重要性について学ぶ など
- 今後社会で重要性が増す領域であり、高校生にも分かりやすい出前授業等が実現できれば意義深い。
- 大学進学を前提とした学び
- 基礎知識

(7)専門的な領域

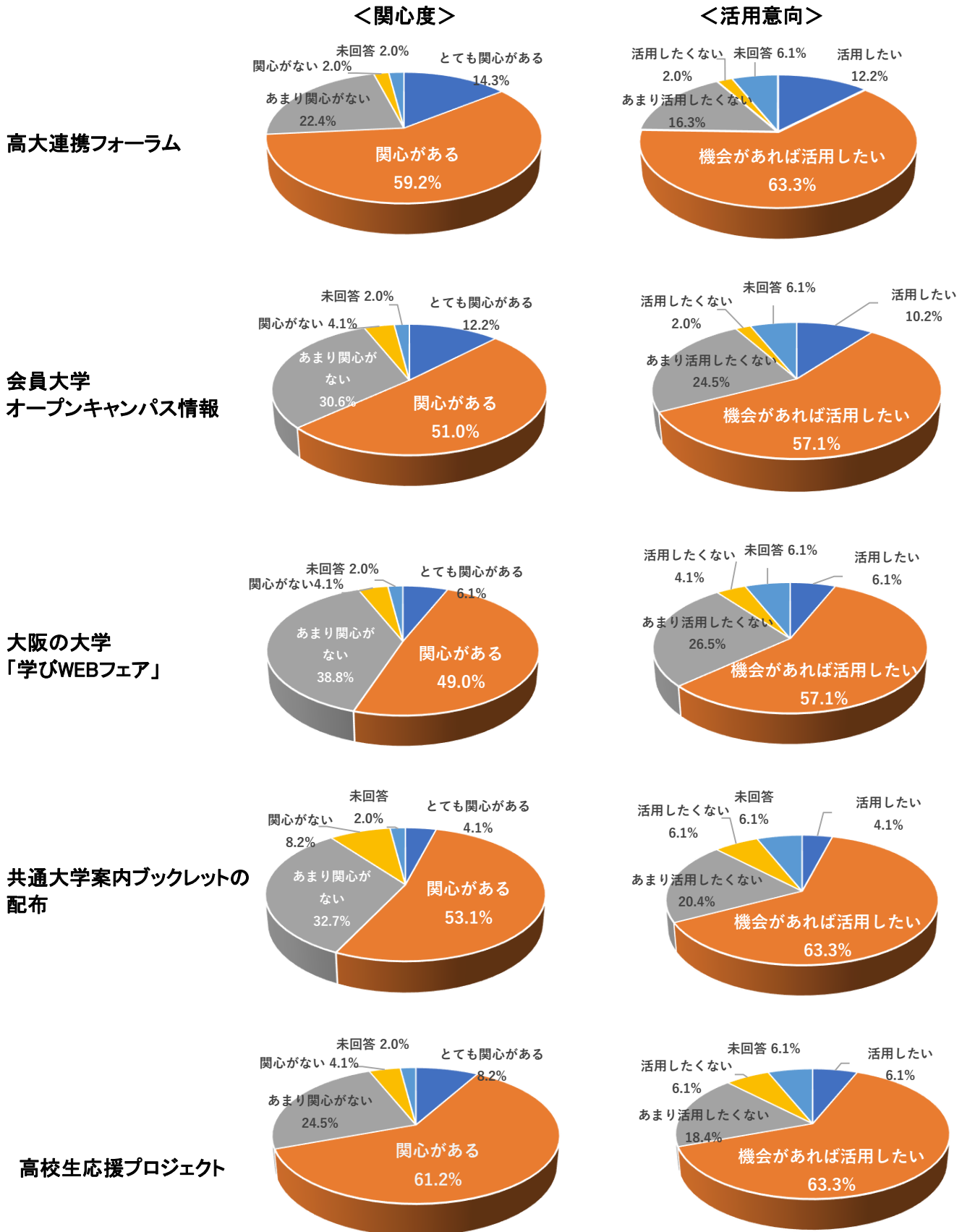
- 専門を学ぶとは
- 専門教育
- 大学の専門的な研究を高校生にわかりやすく説明する(なぜその研究なのか、何が課題なのか等)
- 各学部の専門領域
- その分野のエキスパートの育成。
- 探究活動の「いろは」:探究活動に関する方法論を生徒の興味・関心の高い内容に基づき実践的に学ぶ
- その大学に入ってよかったなと思えるように、専門的な内容もしっかりと指導していただきたい。
- ICTの活用
- それぞれの世界の最先端を学ぶことのできる教育。
- 社会に出て活かされるスキル
- 高い専門性を生かした社会貢献について学ぶ
- 最先端の研究について
- 経済的な価値だけにとらわれない幅広い研究活動
- 専門的な領域の担当者の分野に偏らない概論、社会とのかかわりを意識した取り組み
- デザイン・造形・美術を学ぶ者として必要な資質について
- 大学ならではの学び(入試だけでなく、入学後に必要となる力を特に教えてほしい)
- 専門領域の教授陣による講義に触れる機会ができれば活用したい。
- これこそ大学のすべきことでは・・・?
- 「日本人の強みを考える」(理由)基礎的学力を身につけた上で専門的領域を学んで欲しい
- 大学進学を前提とした学び

(8)大阪地域ならではのテーマ

- 地域研究、大阪・関西万博など
- 大阪の強み
- 大阪・関西万博
- より住みよい大阪づくりや地域活性化について
- 経済面以外での地域活性化
- 大阪・関西万博のデザインについて
- 大阪の歴史と大阪が社会で果たしてきた役割
- 「2025年大阪・関西万博学」(理由)せつかく大阪で開催されるので世界の最先端の技術を学ぶ
- 歴史、文化

IV 大学コンソーシアム大阪の取組の関心・活用について

各取り組みについての関心度・活用意向



V. 最後に

大学コンソーシアム大阪や大阪府内の大学との連携についての要望・意見

- 最近は大手も含め、様々なイベントが行われ、チラシなどもかなりの数が送られてきます。そのような状況の中で、大阪の大学と高校のつながりを付けたモデルケースのようなものを提示していただければわかりやすいかもしれません。
- 本校は、「探究」と「授業研究」を軸にしているので、その点で連携できればと考えています。
- 大学との連携は大事であるが、大学に進学するにあたり高校までの学力として何が必要とされているを明確にする必要があると感じる。
- 他校の活用状況が分からないので知りたいと思いました。
- 大阪府内の大学について、それぞれの大学の特色やアピールポイントを冊子にまとめていただいたり、インターネット上で生徒が見ることができるようにしていただきたい。
- 日本の未来のために、今後とも進めて行けばよいと考えます。積極的な高校生は、学習、部活動や学校行事に力を入れていると思います。また、アルバイトをせざるを得ない学生もいます。それらに配慮し、オンデマンド形式でのプログラムや、時間帯を考えたオンラインのプログラムがあれば良いと考えます。
- 現在も様々な大学とSSHの関係で連携させていただいており、大変ありがたい状況です。今後はさらに探究活動の指導や共同研究等を推進できればいいと考えております。
- 教員間の共同研究や情報交換、大学における研究成果の情報提供が進み、そこから高校の生徒や大学の学生との連携があると、より高大連携が進むのではないかと感じます。
- 本校は、大学進学を志す生徒が多い一方、大学に入るための勉強に意識が向かいがちで、大学に入学したあと、大学卒業後のキャリアまで考えが及んでいないのが正直なところ。(たとえば、勉強といえば入試科目ばかり勉強しているなど) 大学に入ってからの学びを実りあるものとする、卒業後のキャリア・ビジョンを明確にするための支援をお願いしたい。
- 各校の生徒の実態に合った連携校および連携内容を見極めることが重要だと考える。高大連携・高大接続の意義は十分に理解しているが、意義ある教育活動にするためには人員の配置等も含めた整備が必要だと感じる。
- 校長会や教頭会に担当の方が具体的にどのような連携・情報提供をいただけるかをご説明にきていただくと内容を理解して今まで以上に活用したいと思う学校が増えるのではないかと思います。